『四 対古 如良 【】 写真だよりNo. ② 花の写真の撮影ポイント

写直と文/ 四姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川 健三

四川省・四姑娘山周辺で撮影・保護活動をしている大川さんの Web 版『花図鑑』(末尾にアドレス) が完成しました。 それに伴い、大川さんの撮影テクニックをご紹介します。併せて四姑娘山・丹巴ミニ情報も頂きました。(編集部)

四姑娘山周辺の花図鑑をご紹介頂いた機会に、私が花の写真を撮影する 時のポイントを簡単にご説明します。但しこの説明は総合的な教科書ではな く単なるポイントですので内容に偏りが有ります。ご注意下さい。

1. 花の高さで撮影する

しゃがむのが億劫で立ったまま花を見下ろしてシャッターを押していては 良い結果を得られません。人を撮る時と同じように、花の高さ或いは近い所 で撮影すると良い結果を得られます。またやはり人を撮る時と同じように、 どの方向から撮ったら良いかを色々角度を変えて調べてからシャッターを押 します。

作品例:写真① 地上高さ 5cm で咲くアツモリソウの仲間/盛り上がっ た土の上に有る株なので、膝をついて屈むだけで撮影できました。一般的 には斜め顔で撮る方が良い結果を得られ易いです。

2. 斜め後ろ方向からの光線が無難

一般に花の写真は太陽光線が回り込む高曇りの日に撮影するのが良いと言 われていて、植物図鑑に掲載するようなカタログ写真はこれで正しいのです が、生き生きした感動的な写真を撮るにはメリハリのある光線が必要です。 この場合、真後ろからの光線では影が付きませんので立体感に欠ける場合 が多いです。そのため斜め後ろ方向からの光線が無難です。この時、背景の 色合いや明るさがモチーフの花と違っている場所を選んで撮ると良い結果 を得られる場合が多いです。ドラスチックに撮りたい時は逆光を使います。

つまるところ朝夕の光線が適していて、真昼は撮影にあまり適さない事に なります。ですから朝早く起きたり、夕方まで粘って撮影する事になります。 特に朝早くは花や葉っぱが水気を帯びていて色合いが綺麗になります。 カメラにスポット測光の機能が有れば、この方が間違いなく撮れます。

作品例:写真② 朝の光を受けた雪蓮の仲間/標高 4600m のキャンプ地 を朝早く出て、1時間以上掛けて撮影地まで登りました。右後方からの光 線で立体感を出しています。

3. 構図

花を真正面から対称的に中心に置いても良いのですが、非対称的に方向

感を持たせたり、添え物を入れて主題の花の位置を端にズラし たり、前景や背景を入れて奥行を出したり、蝶や蜜蜂のような 生き物を組み合わせたりして、変化を持たせて撮影すると花の 写真の良いコレクションが出来ます。

構図の良し悪しは主観ですが、評判の良い或いは自分が気に 入った絵画や写真を沢山見て感覚を磨くべきです。

この頃は自動焦点カメラが殆どですので、撮りたいモチーフに 合わせてシャッターを半押しして焦点を決め、撮りたい構図の 位置にカメラを動かしてからシャッターを押します。

作品例:写真③ バイモの花畑を思わせるような構図/背 景は黄色い桜草の群落でバイモではありません。バイモの 花と背景の花畑の傾きで左への方向感を出しています。







4. 場所の選定

花が咲いている事が前提ですが、楽な姿勢で撮るには 急斜面や崖が有利です。又このような場所では前景や背 景に余計な物が少ないです。出来れば急に曲がっている 地形を選びます。少し移動するだけで光線の方向を色々 選べるので便利だからです。

ただし意図した前景や背景を入れたい場合は別です。 花が咲いている特別な環境を入れたり、特別なモチーフ を入れたい等の場合です。

作品例:写真④ 急なガラ場に咲くヒエンソウの仲間/ ガラ場では花が疎らに咲き余計な他の植物が少ないです。青いケシも同じ類です。

5. コンパクトカメラの薦め

安価なデジタルのコンパクトカメラは幾つかの点で劣ると言われていますが、花の写真を撮る場合に限れば、 最近の機種は優れています。例えば:

- ①コンパクトカメラのレンズは小さくて暗いですが、 花を撮る時は絞り込んで焦点深度を深くして撮影する事が殆どなので、気になりません。
- ②レンズ周辺の歪みが高価なカメラのレンズに比較して大きいですが、実用上気になりません。
- ③シャッターを押した後の画像処理時間が長いですが、 花の様な静物写真の場合は気になりません。
- ④解像度は高価なカメラと同じです(受光素子を合成した超高級機は別ですが)。16 メガ画素カメラですと、後でトリミングしないで済むように構図を決めて撮影すれば、A3 サイズの印刷原稿に使えます。
- ⑤造りが頑丈ではありませんが、逆に小さくて軽く操作性に優れています(頑丈さが求められる報道用カメラは別ですが)。

私は数年前まで重い6×7判力メラに接写用のレンズを付けて花を撮っていました(当然ながら手動で絞りと焦点を合わせます)が、今は10数メガ画素のコンパクトカメラで花を撮っています。





とにかく小さくて軽く自動焦点や超接写⇄接写⇄風景 切替などの操作が楽で、その上パソコンで画像を直ぐに 見れる便利さに脱帽です。

作品例:写真⑤ シソ科の花と蜜蜂/6×7判カメラでこの種の写真を撮るのは大変でしたが、最近のデジタルのコンパクトカメラでは大変楽になりました。

▶ HP版花図鑑: [Colorful flowers of the Queen Valley] は四姑娘山を含むギャロン地方に咲く花の一部約40科、100属、200枚の写真を収録しています。詳しくは下記をご参照下さい。 http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/flowers/flowerlist0-e.htm

四姑娘山・丹巴ミニ情報

●山と渓谷社のカレンダー

2010年から毎年四姑娘山の風景が「美しき世界の山カレンダー」に掲載されています。今年はムロツ湿原の写真です。機会がございましたらご笑覧下さい。

http://www.yamakei.co.jp/products/detail.php?id=841250

●地球の歩き方

10月に「地球の歩き方 成都編 12-13」が改版発行 されました。今回は四姑娘山の8頁に続いて丹巴が4 頁にわたって紹介されています。

現在、四姑娘山と丹巴を繋げて訪れるツーリストが増えており、今回の「地球の歩き方」の発行によって更にこの傾向が増えると思われます。

なお丹巴の風情節(四川 10 大祭り)を毎年 10 月 26~

28日頃に開催する条例が制定され、2011年から実施されます。下の写真の背景はギャルモ・モルド(女王の尖った岩)山です。機会がございましたら是非お出で下さい。

